

本の世界を楽しもう（２年）

かさこじぞう

指導目標

語り口や様子を表す言葉などの特色に気づき，楽しく味わうとともに，自分の好きな本を絵にかいて紹介する。読む 書く

民話風の語り口に気づき，登場人物の様子や気持ちを考え，楽しく読み味わう。

関心・意欲・態度

自分の表現方法や意見を進んで話したり，友達の考えを自分の考えと比べながら聞く。

話す・聞く

姿勢や口形などに注意して丁寧な言葉で，はっきりした発音で音読する。言語事項

教材について

（１）児童の実態

本学級では，朝行事の時間に，児童が選んだ本を読み聞かせをしているので，児童の多くは，校内の図書室をよく利用し，本を読んでいる。そして自分が読んだ中でおもしろかった本を「この本を読んでほしい」と持ってくるなど本には親しんでいる。

国語科学習に関するアンケート調査を行った。「本を読む」が好きと答えた児童は８０％，ふつうは２０％，嫌いと答えた児童はいなかった。結果により，多くの児童は，本を読んだりお話を聞いたりすることを好んでおり，昨年度の研修による「読むこと」の「楽しんで読書しようとする態度」は育ってきているように思われる。

同様に，「聞く」ことについても，「話す人の顔を見て終わりまで聞くことができる」は，９５％であった。また，「人前で話したり，朗読したりする」が好きと答えた児童が５５％，嫌いと答えた児童は４５％であった。このことから，人前での発表や朗読が苦手と思っている児童が半数を占めている。その大きな理由としては，恥ずかしい，自信がない，があげられる。実態を見ても，わかっていながら積極的に挙手ができない子，発言の声が小さい子がいる。

そこで楽しく音読したり，自分の意見をしっかり発表したりできる言語活動の場を多く設定し，練習を積み重ねることにより自信をもって発表できる力を身につけさせたい。さらに話すことなど自分を表現しながら，相手の考えを受け止め，それに対して自分の意見や感想を述べるような相互に伝え合うことのできる力を育てていきたい。

（２）教材観

本教材は，たとえ貧しくとも，相手を思いやる優しい心をもっていれば幸せになれるという，心温まる物語である。正月のもちも買えない貧しいじいさまとばあさま。手作りの笠も売れず，帰る途中で，吹雪の中の地蔵様に売り物の笠ばかりか自分の手ぬぐいまでかぶせてやる優しいじいさま。それを「ええことしなすった」とともに喜ぶばあさま。地蔵様の贈り物は，貧しくも仲よく明るく生きていることへの贈り物である。生きていくうえで本当に大切にしなければならないものとは何かということをしっくり考えさせてくれる作品である。

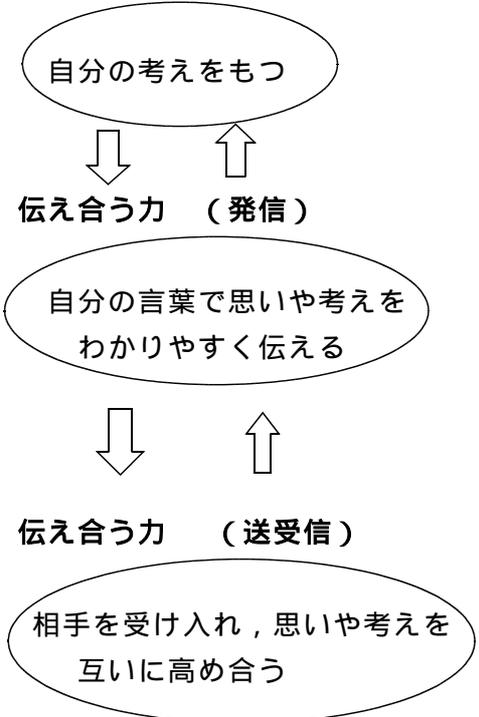
本単元では，「かさこじぞう」の二人の様子や暮らしぶり，気持ちを読み取り，そこに込められた昔の人の思いや願いを十分に話し合わせ，そして読み取ったことを生かして動作化を取り入れ，歌も交えながら音読を工夫させていきたい。それによって伝える喜びや読書の楽しさを共感

できる学習であると考え。このような学習が、「自分の思いや考えを伝え合う力のある児童の育成」につながると考える。

(3) 指導方針

- ・児童が、話し合うことに興味をもち、積極的に話し合いに参加できるように、4, 5人の小グループで学習活動を行い、尋ねたり応答したりしやすくする。
- ・「話すこと」や「聞くこと」に対して児童の関心や感想をもちやすくするために、場面ごとに意見をまとめさせ、話題に沿って話し合い活動ができるようにする。
- ・話すときには、相手にわかるようにはっきりと話し、表現方法の要点をおさえて話す順序を考えながら話すようにさせる。
- ・聞くときには、大事なことを落とさずに最後まで聞くようにし、わからないことや疑問に思ったことを尋ねるようにさせる。
- ・みんなに登場人物の心情が伝えられるように、動作化や歌を取り入れ、登場人物のしぐさや、そのときの心情がかもし出されるよう音読発表に工夫を加える。このような活動の中で「伝え合う」心を育てていきたい。

(4) 「伝え合う力」を育成するための具体的な姿

国語科で目指す具体的な姿	伝え合う力
<p>知りたい、伝えたい、聞きたいという思いをもっている。</p> <p>知らせたいことや伝えたいことを選んでいる。</p> <p>全員が自分の考えをもっている。</p> <p>相手にわかるように話している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事柄の順序を考えながら話している。 ・筋道を立てて、話している。 ・目的や意図に応じ、的確に話している。 ・大事なことを落とさないで聞いている。 ・話の中心に気をつけて聞いている。 ・相手の意図をつかみながら話している。 ・相手の考えを理解し、よさに気づいている。 ・相手の考えと比べながら自分の考えを深めたり、新しい考えを作ったりしている。 ・質問しながら聞き、自分の考えをまとめている。 ・相手のよさを認め、共感的な聞き合いをしている。 	<p>伝え合う力</p>  <p>自分の考えをもつ</p> <p>↓ ↑</p> <p>伝え合う力 (発信)</p> <p>自分の言葉で思いや考えをわかりやすく伝える</p> <p>↓ ↑</p> <p>伝え合う力 (送受信)</p> <p>相手を受け入れ、思いや考えを互いに高め合う</p>

学習指導計画（全14時間）

過程	時	学習活動	単元（題材）の評価基準	評価方法
つかむ	第1時	全文を聞いて話のあらすじをつかむ。・グループごとに感想を話し合う。	<p>< 関心・意欲・態度 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関心をもって昔話を聞いている。 ・ 感想を持ち話し合うことができる。 	観察
表現の工夫を高める	第2時 8時	<p>本文を読み取る。</p> <p>大晦日の二人の暮らしぶりや気持ちを読み取る。</p> <p>かさこが売れなかったじいさまの様子や気持ちを読み取る。</p> <p>地蔵様にかさこや手ぬぐいをかぶせるじいさまの優しさを読みとる。</p> <p>餅つきのまねごとをして年を越す二人の姿をとらえる。</p> <p>真夜中のできごとに対する二人の気持ちを想像する。</p> <p>場面ごとに、ふきだしを書き、じいさまやばあさまの人柄について話し合う。</p> <p>・「かさこじぞう」に込められた昔の人々の思いや願いについて話し合う。</p>	<p>< 読むこと ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各場面ごとにじいさまとばあさまの言動から人柄に気づきながら読むことができる。 <p>< 話すこと・聞くこと ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の感じたことを相手にわかりやすく話すことができる。 ・ 大事なことを落とさないようにしながら聞くことができる。 ・ 話題に沿って話し合うことができる。 <p>< 言語事項 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 姿勢や口形に気をつけて話している。 <p>< 書くこと ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ じいさまとばあさまの心情を探り、ふきだしを書くことができる。 	<p>観察</p> <p>ワークシート</p> <p>自己評価カード観察</p>
		<p>学習の発展</p> <p>音楽とお話で楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ の後に「かさこじぞう」1番を歌う。 ・ の間に「かさこじぞう」2番を歌う。 ・ の後に「かさこじぞう」3番を歌う。 <p>音読の楽しさを知り、歌や動作化を交え、工夫を凝らした音読会をする。</p>	<p>< 言語活動 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物の心情が伝えられるように、感情を込めて大きな声で音読や歌うことができる。 ・ 好きな場面を選び動作化を入れながら発表する。 <p>< 言語事項 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 姿勢や口形に気をつけてはっきりした発音で音読することができる。 	<p>観察</p> <p>観察</p>
実践	第9時 14時 （本時）			

本時の展開（本時14 / 14）

目 標

- ・ 民話特有の語り口調に気をつけて登場人物の心情が、聞き手に伝わるように音読することができる。（役割音読）
- ・ 伝えたい場面を選び、貧しさに打ちひしがれないユーモアと力強さを動作化することができる。（登場人物）
- ・ 昔話としての余韻にあふれた、場面の様子が聞き手に伝わるように音声化することができる。（ピアノ演奏・合唱）

準備

ピアノ・すげ笠・手ぬぐい

展開

学習活動	指導上の留意点と支援	評価項目（方法）
1 本時の学習内容を知る。	・ 前時の反省を生かして、音読発表会を行うことを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 東部公民館で音読発表会をしよう。 </div>	
2 発表の注意点を確認する。 < 役割音読 > ・ 声の大きさ ・ 速さ ・ 間の取り方 ・ 伝えたいところ ・ 会話文の読み方。 < ピアノ演奏・合唱 > ・ 出だし ・ ゆっくりしたリズムで ・ 余韻をかもしだすように < 登場人物の動作化 > ・ 表現に温かさを出す ・ 語り口調に気をつけて ・ 会話表現を大事に	よりよい発表会にするためには、聞き手を意識してわかりやすく、はっきり音読することが大切であることを伝える。 ・ 発表の注意点を確認させる。 ・ 音読は役割分担し、みんなが音読できるようにする。 ・ 物語の間に歌を入れ、余韻をかもし出させながら音読をさせる。 の後に「かさこじぞう」1 番の歌 の間に「かさこじぞう」2 番の歌 の後に「かさこじぞう」3 番の歌 ・ 好きな場面を選んで登場人物の心情をつかみ、動作化を入れながら発表させる。	・ じいさま、ばあさまの気持ちが表れるように音読している。（観察） ・ 登場人物の心情が伝わるように動作化している。（観察）
3 学習のまとめをする。 （1）自分の学習を振り返る。 （2）発表会の感想を聞く。	・ 振り返りカードを用いて、振り返る視点を与える。 ・ 発表を通して、よかったと思うところを聞き、意見や感想など賞賛し、「話すこと」・「聞くこと」への意欲を高めさせる。	・ 友達の工夫したことに気づいている。（振り返りカード）

< 授業記録 >

1, 授業活動の様子

(1) 伝え合う活動を取り入れた音読

「話す・聞く」スキルの中の(口の準備体操)から始め、声を出す機会を多く設定した授業を進めた。練習の際にはグループごとに、会話文の音読を工夫するために、本文中の人物の人柄を表す言葉に気をつけ、会話文の表現方法の観点について、子どもたちにチェックカードを活用し、お互いのやり取りをとおして聞き手を意識した練習を十分行った。「かさこじぞう」の民話特有の会話文は方言調で、登場人物の気持ちや人柄をほのぼのと表し、子どもたちが読み親しみ、しかも楽しみながら音読できるように工夫した。さらに、動作化や歌を交えるなど、多様な表現活動を工夫することで、民話の楽しさを伝えることを目標にした。

(2) 児童の動き

発声練習・口の準備体操を十分に行い、学級内スピーチなどいろいろな場面で発表の機会を設け練習を積み重ねることにより、一人一人の表現力が高まり、自信をもって意欲的に練習に取り組む過程で感情を込めた読みができるようになってきた。この民話の楽しさを「他の人にも伝えたい」という思いを膨らませ、地域の公民館祭りで音読発表をしようということとなった。

公民館祭り参加



(3) 動作化・歌を取り入れる

< じぞうさまに笠をかぶせる場面 >

じいさま・じぞうさまを同化させることで、登場人物の心情をつかみ、気持ちをより深めた。

< 場面の間に合唱 >

歌を交えることで、さらに余韻をかもし出すことができるよう効果的演出に努めた。



2, 授業の成果

(1) グループごとに練習し、チェックカードを活用することでお互いに自由に意見交換することができ、効果的な演出法や会話文の表現方法を見出すことができた。

(2) 発声練習や口の準備体操を十分行った結果、今まで声が小さく聞き取れなかった児童も自信をもって大きな声で、発表したり感情を込めた音読ができるようになった。

(3) 動作化や歌を取り入れ、場面の様子や心情を効果的に演出することで、聞き手に民話の楽しさを伝えることができた。

3, 今後の課題

(1) 他学年との交流も、積極的に行っていきコミュニケーションの輪を広げていきたい。

(2) 音読や読み聞かせをとおして、伝え合う心を育てていきたい。